

令和6年5月1日

関係者各位

全国高等学校定時制通信制軟式野球連盟会長
小山利



令和6年度 第71回全国高等学校定時制通信制軟式野球大会
開催趣意並びにご支援のお願い

謹啓 新緑の候、皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また、平素は定時制通信制高等学校教育に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

おかげさまで本大会も、今夏には71回を迎えることになりました。これもひとえに皆様方のご支援の賜物と、連盟関係者一同深く感謝いたしております。

さて、定時制通信制高校の野球部活動は、全日制的硬式野球部とは異なり、経費・練習時間・練習場所の確保が困難で、かろうじて一般社会に広く普及し親しまれている軟式野球に活路を見出しております。働きながら学ぶ選手にとりまして、神宮球場で行われる全国大会は全日制硬式野球部の甲子園大会と同じ価値を持ち、「もう一つの甲子園」として大きな夢と希望を担っております。

この大会の始まりは、昭和29年、群馬県高崎の地で開催された関東甲信越大会です。それまで全日制的軟式野球大会に参加していた定時制野球部が県大会で優勝したにもかかわらず、全日制的年齢制限に阻まれて上位大会に進出できなかったことが発端となり、定時制の先生を中心に自分たちで定時制高校だけの全国大会を夢見ての出発でした。昭和31年には参加校が増加し、東日本大会として開催、第4回大会はより一層の発展を願い、会場を東京に移して、学生野球のメッカ神宮球場で開催されました。昭和33年の第5回大会では東北地方、関西地方からも参加校があり1都1府11県13校参加となったため、念願であった『全国大会』として発祥の地、群馬で開催され、第6回大会以降は会場を東京に戻し、神宮球場を中心に開催しています。第15回大会からは、通信制高校も参加し、定時制通信制高校の全国大会として現在に至っております。なお、創設時より手づくりで開催された大会は、現在でもたくさんのボランティアの協力により運営されています。

関係者各位のご支援とご協力により参加校が全国に広がり、1都4県6校の参加だった第1回大会から71回目を迎えるにあたり、本年度は各都道府県・各地区代表、計22校が参加し8月13日(火)～16日(金)《雨天順延》、明治神宮野球場を中心に行うこととなりました。この大会に参加することで、全国各地の球児と友好を深め、大舞台で活躍し、技術的・精神的にも多大な成長をもたらすと信じております。また、われわれ関係者も選手たちに高校生としての自覚を促し、一般社会に喜ばれる人材を育成すべく日々努力しております。

しかしながら、共催・後援諸団体の補助金と参加校の分担金だけでは、この意義ある大会を運営するのに厳しい実態がございます。参加校及び参加選手は分担金以外に東京までの旅費や滞在費等、かなりの負担を強いられています。このような事情をご賢察いただき、「定通球児の夢」である全国大会をご支援いただきたく、ここに伏してお願い申し上げます。

謹白